

# 平成27年度スジアオノリ養殖概況

牧野賢治

平成26, 27年度の月毎の徳島県漁連共販数量の推移と対前年比を図1に、年度毎の共販数量と平均単価の推移を図2に示した。

10月上旬から種場が解禁となり、種付け作業が順調に進んだ。10月下旬から本養殖が開始されたが、例年よりも水温が2程度高かった影響により、スジアオノリが生育不良になった。11月下旬にスジアオノリの生育の適水温になったが、12月9～10日にかけて大雨が発生し、川上流からの大量の濁流の影響により養殖施設が壊滅状態になった。その後、9割以上の養殖業者は養殖を終了した。

平成27年度の月別の共販実績は、11, 12月の生産量を合わせて比較しても、前年度の12月の生産量を大きく下回った(図1)。共販の最終結果は数量15.8トン、金額2.4億円、平均単価15,200円だった(図2)。

水産研究課は、漁業者が実施する人工採苗を支援するため、人工採苗用の母藻(吉野川産広域温度対応Y1124)種網を生産し、9月25日に里浦、長原、川内、応神町、徳島市第一、渭東、徳島市辰巳及び阿南中央の各漁協へ配布した。

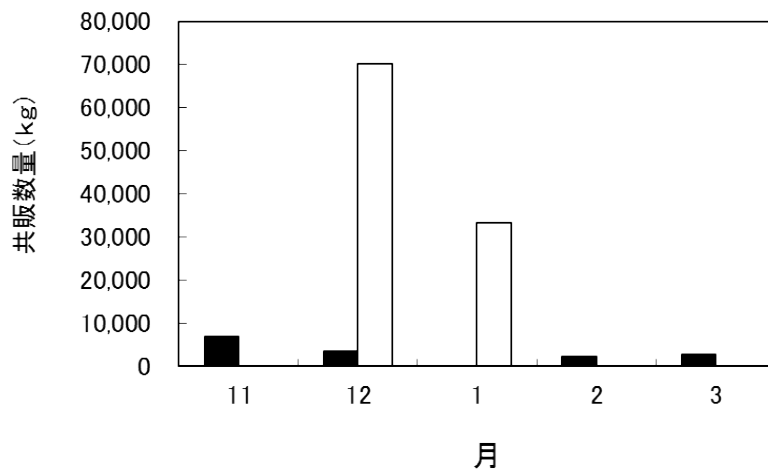


図1. 平成25, 26年度における共販数量の経月変化。 :平成27年度； :平成26年度； :対前年比

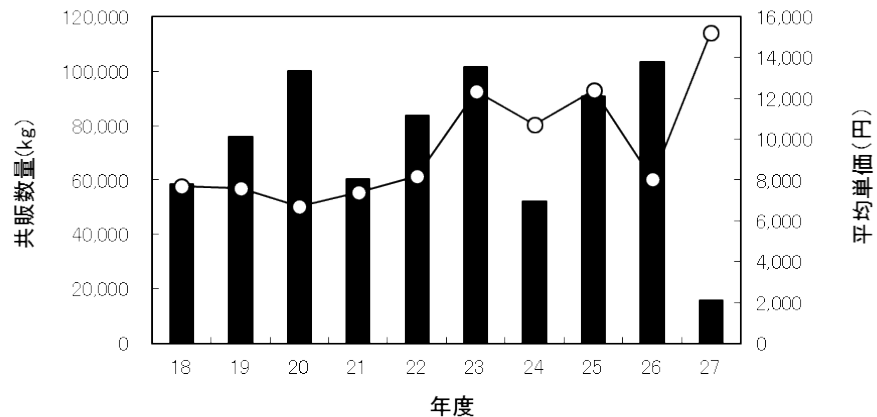


図2. 年度別共販数量と平均単価の推移。 :共販数量； :共販単価